



子供の日

子供の日は、国民の祝日の一つとして法律で定められた日です。日本で一番最初の子供の日は1949年(昭和24年)の5月5日になります。祝日法によると、「こどもの人格を重んじこどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」とあります。こどもの成長をお祝いするだけでなく、実はお母さんも祝福される日なんだとか。お母さんだけでなくお父さんも一緒に感謝すると、家族の絆がもっと深まりそうですね。

「聞いてないぞ」住宅会社の説明不足4選

住宅の新築やリフォームでは、完成した建物に住まい手が不満を抱くことがあります。事前に説明を受けていないと感じた場合、住まい手の不満は怒りに変わり、その矛先はつくり手に向かいます。

「そんな話は聞いてない」。今回は、住まい手が声を荒らげた住宅トラブルを取り上げます。いずれも、つくり手の説明の仕方に問題があった事例です。

元記事:日経XTECHより

1本目は、天井を巡るトラブル。住宅のリフォームの依頼を受けた建築士は、浴室をタイル張りからユニットバスに替え、容積をやや縮小する計画を立てました。

建築士は、依頼主に浴室が少し狭くなると事前に説明。採用するユニットバスの仕様をカタログで確認してもらいました。

ところが引き渡し後、浴室を見た依頼主は天井が低くなるとは聞いていないと激怒。リフォーム費用の約8割に当たる未払い分約550万円の支払いを拒んだのです。

2本目は、床を巡るトラブル。新築住宅の建て主の妻は、子どもの布団を上げる際、フローリングに生えた黒カビを発見。住宅会社に連絡しました。

住宅会社の担当者は、24時間換気システムを稼働させていないことが原因だと主張。妻は「そんな説明は事前に聞いていない」と反論しましたが、担当者は「24時間換気のスイッチを切らないことは常識だ」と言い放ちました。

3本目は、サッシを巡るトラブル。中古住宅の増築の依頼を受けた工務店の社長は、対象の建物が新築時の防火基準を満たしていないと知って仰天しました。増築の際、既存のサッシを全て交換しなければならないからです。

社長は依頼主を訪ね、当初の見積もりよりも300万円増えると伝えました。すると、「そんな話は聞いていない」と依頼主は憤慨。増築の依頼を取りやめました。

4本目は、擁壁を巡るトラブル。中古住宅の買い主は、購入代金の決済の数日前、売り主と交わした契約を白紙に戻したいと言い出しました。

住宅はコンクリートブロック積みの擁壁の上に立っています。ところが、その擁壁が現行法令に適合しない既存不適格だと分かったのです。

将来、住宅を建て替える際、擁壁のつくり直しなどに多額の費用がかかります。「擁壁が既存不適格とは聞いていない」。買い主は憤りをあらわにしました。

第38回 今月もウォーキングにお付き合いください

三成 哲也のウォーキング日誌



4月7日 お花見ウォーキング

自宅から根岸線新杉田駅まで電車で移動、新杉田駅から桜の名所富岡総合公園へ

小雨がぱらつく中、新杉田駅を出発。今日で桜も見納めか、冷たい雨が恨めしい。国道16号線(別名横須賀街道)を横須賀方面に歩く。学生の頃、山口百恵の「横須賀ストーリー」が流行っていて、曲の出だしの部分「これっきり、これっきり…」をとって「これっきり街道」なんて言っていた頃が懐かしい。これっきり街道を南下して三浦海岸や走水にはよく行ったものだ。同じ海でも由比ガ浜や江の島の湘南海岸とはまた違った趣がある。こんなことを言うとか横須賀の人には失礼だが気取ったところがないと言うか、誰でも受け入れてくれる寛容さというか湘南海岸よりなじみやすい。こんなことを思うのは私だけだろうか？

青砥坂を過ぎたところにK君の家がある。何度か泊めてもらったことがあるが、それは学生の頃の話、もうかれこれ30年も会っていない。街ですれちがっても、きっとお互い分からないであろう。

トンネルを抜けて鳥見塚の信号を海側に左折すると、道の両側に満開の桜が出迎えてくれる。いつ見てもこの桜は素晴らしい。道の両脇だけでなく公園内の丘の上にも大きな桜の大木がある。滑らないよう足元を気をつけながら階段を登っていく。2本の桜の大木に出会えた。こころなしか数年前に見た時より老木化しているような気がする。桜だって年々齢を重ねていくのであろう。

この富岡総合公園の入り口に石造りの立派な門がありその門に「元横濱海軍航空隊隊門」と刻まれていた。家に帰ってから調べてみると、『富岡総合公園は神奈川県横浜市金沢区にある横浜市立の都市公園。旧日本軍の横濱海軍航空隊の基地として開設され、それと同時に日本航空の南洋航路の基地にもなった。太平洋戦争(大東亜戦争)終戦とともに米軍に接收され富岡倉庫地区と呼ばれていたが、その後返還され、公園として整備した。総面積約21.9万㎡』とある。公園内に慰霊碑があるのも頷ける。今日は日曜日でもありお花見を予定された家族も沢山いらっやると思うと、本当にこの雨が恨めしい。

一通り公園内を一周して帰途に就く。帰りは青砥坂の信号を左折して港南台の自宅まで歩く。左手の坪呑(つぼのみ)団地を通り過ぎていく。この坪呑地区に「底なし沼」伝説があるのを聞いたことがあるが…。

坪呑団地を過ぎると栗木の信号のすぐそばにバッティングセンターがある。子供たちが小さい頃に何度か連れて行ったような記憶がある。そういえば今日は長男の誕生日だ。私の妻は暮れに新しいカレンダーを掛けると、すぐにメモを書き始める。息子、息子の妻、孫たちの誕生日をメモしていくのだ。ちなみに私の誕生日の10月をめくってみても何も書かれていなかった。結婚して40年も経てば当然のことか。

子供が小さい頃のことを思い浮かべながら歩く。峰入口を過ぎ、横横道路の港南台インターも過ぎていく。雨は上がっているがまだお日様は見えない、このまま良い天気になって欲しい。最後の桜を楽しむために。